

第1回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会議事録

1. 日時 平成23年6月7日(火) 18:30~20:15
2. 会場 エコーセンター2000 3階 視聴覚室
3. 出席者 田中委員(座長)、松井委員(副座長)、藤永委員、服部委員、和田委員、菅野委員、尾崎委員、河西委員、小林委員、佐々木委員、渡辺委員、中山委員、深川委員、我妻委員、小村委員、加藤委員、河原委員
4. 事務局 網走市: 嶋田企画総務部参事、日野主事
大空町: 山本総務課参事、福原主査

開 会

【事務局】 皆さんこんばんは。本日は、お忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

定刻前ですが皆さんお揃いになりましたので、これより「第1回網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会」を開催いたします。

1. 委嘱状の交付

(副市長から委嘱状交付)

2. 副市長挨拶

【副市長】 改めまして、お晩でございます。ご紹介いただきました副市長の大澤でございます。

水谷市長が出張しておりまして出席できませんので、代わりまして私の方から一言ご挨拶申し上げます。

本日は、第1回目の網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会の開催にあたりまして、皆様方には大変お忙しい中にもかかわらず、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

また、皆様には日頃より、それぞれのお立場で地域振興等にご尽力を頂いておりますことに厚くお礼申し上げたいと思います。

ただ今、皆様に委嘱状をお渡しさせていただきましたけれども、設置にあたりましては、関係団体から16名の皆様に、また、公募委員として2名の方にご就任をいただきました。公私共に忙しい方ばかりで大変恐縮に思っているところでございますけれども、ひとつよろしくお願ひしたいと思います。

さて、地方は今、人口減少、地域経済の低迷、少子高齢化など、様々な課題

に直面しております。また、公共サービスに対する住民ニーズは高度化・多様化しております。これからは、様々な主体との連携・協力のもとに、自立した持続可能な地方分権型社会の構築が求められているところでございます。

このような中、安心して暮らせる地域を形成し、定住のための暮らしに必要な諸機能を、総体として確保していく「定住自立圏構想」に取り組むことは、網走市と大空町の発展に大きく寄与するものと考えまして、本年3月にそれぞれの議会で議決を経まして、定住自立圏形成協定を締結したところでございます。

今後は、本協定に基づき、圏域の将来像や、両市町が連携・協力する具体的な取組を記載する定住自立圏共生ビジョンを策定することといたしておりますが、策定にあたりましては、委員の皆様からのご意見等を、幅広く反映させていただきたいというふうに考えてございます。

委員の皆様におかれましては、それぞれのお立場や視点から、様々なご意見をいただきたいと考えておりますので、今後ともなお一層のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。挨拶とさせていただきます。どうぞ、よろしく願いいたします。

3. 委員紹介

(事務局から各委員紹介)

4. 座長及び副座長の選出

【事務局】 それでは、これより次第4の座長及び副座長の選出に入らせていただきます。

お手元にお配りしております資料1「網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱」をご覧ください。「要綱」第6条の規定によりまして、議長は座長が当ることとしております。

本懇談会は、まだ、座長及び副座長が選任されておられませんので、座長が選出されるまでの間、副市長が議長をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

【副市長】 それでは、座長さんが選出されるまでの間、私が議長を務めさせていただきますので、よろしく願いいたします。

はじめに、座長の選出につきまして、お諮りをいたします。懇談会設置要綱第5条の規定により、座長は委員の互選により定めることとしております。どのように執り進めればよろしいのか、ご意見を伺いたいと存じます。

【委員】本日はここに18の方が各分野から来られているわけでございますけれど、どなたが良いか私の方もわかりかねますので、事務局の方でどなたが良いかご提案いただければと思います。

【副市長】委員から事務局からご提案いただければという意見がありましたが、そのような形で進めてよろしいでしょうか。

（異議なし）

異議なしの声がありましたので、それでは、事務局から提案をお願いします。

【事務局】事務局より、座長選出の案を提案させていただきます。
座長に、東京農業大学 生物産業学部の田中委員を推薦させていただきます。

【副市長】ただ今、事務局から田中委員を座長にとの提案がありました。この扱いでよろしいでしょうか。

（異議なし）

それでは、座長に田中委員ということですので、賛成の方、拍手でお願いいたします。

（拍手）

ありがとうございます。

それでは、田中委員に座長をお願いすることといたします。

田中委員こちらの座長席に移動願います。

【事務局】それでは、田中座長に一言ご就任のご挨拶をいただきたいと存じます。

【座長】東京農業大学の田中と申します。よろしく願いいたします。

私が適任かどうか自分自身わかりませんが、とにかくご指名ということですので、精一杯務めさせていただきたいと思っております。そのためにも、皆様方のお力を是非賜りたいとこのように思いますのでよろしく願いいたします。

先程も副市長からご挨拶ありましたように、都市機能の変化というのは、今日言われるようになって、東京でも住宅あたりでは夜間部ですけれども、かなり都市の過疎化というのが起こってきている。伴いまして、やはり生活基盤というのが、むしろ公共のサービス等々が、もう一度再編されなければならないような状況になっております。

これは地方だからだとか、首都東京だからだとかなくして、全国共通の問題

ということに段々なってきたおると思います。

出来ましたら我々知恵を絞って、全国に模範になるような、大きな事を言うようですけど、そういうビジョンを皆さんのお力で作って行きたいとこのように願っておりますので、どうぞよろしく願いいたします。

【事務局】ありがとうございました。この後の進行は、田中座長にお願いいたします。なお、副市長においては、所用がございますので、この場で退席させていただきます。よろしく願いいたします。

【座長】それでは、これより議案を進行させていただきます。

最初に懇談会設置要綱の定めによりまして、私が議長を務めさせていただきますけれども、副座長の選出に入りたいと思います。

副座長の選出ですけども、懇談会設置要綱を見ますと第5条の規定によって、副座長は座長が指名することとしておりますので、私から指名させていただきたいと思います。

副座長には、網走市社会教育委員の松井委員にお願いしたいと存じます。よろしく願いいたします。

(拍手)

【座長】それでは、本日の議題に入りたいと思います。

ただ皆様、大変お忙しい方々ばかりで、効率的な議事を進めて行きたいと、このように考えております。予定としては出来れば8時位を目途に進めて行きたいと思います。

本日の予定は4項目でございます。

5（1）定住自立圏構想の趣旨説明について

【座長】まず今日は第1回目の懇談会ということで、基本的な部分について、事務局の方からご説明いただけると伺っております。

議事1号の定住自立圏構想の趣旨説明についてでございます。事務局から説明をお願いいたします。

【事務局】定住自立圏構想の趣旨について、ご説明いたします。

定住自立圏構想の基本的な考え方ですが、人口減少、少子高齢化が進行する中、地方の生活基盤は衰退し、このままでは、単独の市町村だけでフルセットの行政サービスを提供することは困難になってくるのが懸念されます。

このため、住民の生活環境が密接に関係している地域を一つの圏域と捉え、

定住のために必要な生活機能である医療、福祉、教育、公共交通などを単体の市町村ではなく、圏域全体で確保するとともに、自立のための経済基盤や地域の誇りを培い、全体として魅力あふれる圏域を形成していく構想でありまして、総務省が推進している施策であります。

次に、定住自立圏についてですが、お配りしています資料2定住自立圏構想推進要綱の概要をご覧ください。

定住自立圏は、中心市と周辺市町村が、自らの意思で1対1の協定を締結することを積み重ねて、形成される圏域でありまして、圏域ごとに集約とネットワークの考え方にに基づき、中心市と周辺市町村が連携・協力することにより、圏域全体の活性化を図ることを目的とするものであります。

中心市になる要件は、人口が4万人を超えていて、昼夜間人口比率が1以上の都市となっており、生活に必要な都市機能に一定の集積があり、周辺市町村に都市機能が及んでいる都市であります。

中心市の要件を満たしている都市は、道内では13市、網走管内は当市のみとなっています。

資料の①中心市宣言ですが、当市は、昨年9月の議会において、中心市宣言を行いました。

一方、周辺市町村についてであります。周辺市町村は、中心市と近接し、経済、社会、文化や住民生活等に密接な関係にある市町村とされており、中心市への通勤通学割合が10%以上であることも、考慮することとなっています。

大空町から網走市への通勤通学者割合は16%となっています。

次に、資料の②定住自立圏形成協定についてですが、中心市と周辺市町村が、定住人口のために必要な生活機能の確保に向けて、連携する具体的事項を規定した協定を締結するものであります。

協定の締結、変更、廃止については、議会の議決を経ることとされていることから、今年3月の両市町の議会において、それぞれ議決をいただき、3月23日に網走市と大空町の間で、定住自立圏形成協定を締結しました。その写しを、資料3としてお配りしていますので、ご覧ください。

協定書の1ページに、目的、基本方針、連携する取組と役割分担、費用負担などについて、規定しています。

3ページから8ページにかけて、3つの政策分野ごとに取組内容と役割が記載されています。

生活機能の強化に係る政策分野では、医療、広域観光、教育、環境、防災、福祉、産業振興の7分野、結びつきやネットワークの強化に係る政策分野では、地域公共交通、地域内外の住民との交流・移住促進の2分野、圏域マネジメント能力の強化に係る政策分野では、人材の育成、圏域内市町の職員等の交流の2分野で、合計11の分野にわたり取組と役割が記載されています。

最後に、定住自立圏を形成することによりますメリットについてであります
が、まず財政措置があります。包括的財政措置として、中心市には年間400
0万円、周辺市町村には年間1000万円を上限として、特別交付税が措置さ
れます。

そのほか、今後、国が推進する各種事業の採択の際に、事業によっては、優
先的に採択されるなどの優遇措置があります。

以上で、説明を終わります。

【座長】ありがとうございました。

ただ今、定住自立圏構想の趣旨、一般的な定住自立圏構想の概要についてご説
明いただきました訳ですけれども、委員の皆さんから特に確認しておきたいこ
となど、質問したいことなどありましたらお願いいたします。

【委員】今回の定住自立圏の形成ということですが、網走市と大空町の1市
1町で協定されたのですが、斜網地区という、ある意味の一つのクローズド的
な地域として、この地域は、特に医療に関しては、運営されているのですけど
も、この定住自立圏の協定に関しては、他の町村の参加具合については、見通
しはどうなのでしょう？

【座長】基本的には、大空町と網走市で一応協定を結んで、共生ビジョンを
作っていくということになってはいますが、おそらく広域圏という観点から
言うと、もう少し圏域が広がっていく、これは将来的にですね。いわゆる資料
にも書いてあると思うのですけども、定住自立圏同士の連携も今後期待する
ということで、やっぱりもう少し広げていくということで、現時点では大空町と
網走市ということになるかと。良いことですから、どんどん広げていくのは
良いのですけれども、それぞれの自治体なので、事情があったりすり合わせを
することも当然今後、必要となってくるのではないかと思いますけれども。

他に如何でしょうか？

今、北海道内では、約5つの市がビジョンを既に作成しているという状況で
あります。従ってもっとこれからはどんどん増えていくのではないかと
思っておりますけれども、この状況の中で、更に定住圏同士の連携ということが進む
ことを私は個人的には期待していると思います。

他にございませんでしょうか？中々最初ですから、概念とか初めて聞く概念も
あるでしょうから遠慮なくどうぞ。

【委員】この構想自体を私まだ理解できていないのですけれど、例えばライ
フラインとか医療だとわかりやすいですね。市民生活とか。産業だとかにな

るとわかりにくいという感がございます。今大空町と網走市ですけれども、これは、今やるのは補助金を貰うためにやるのか。それとも将来的なビジョンを、更に将来もっと大きな範囲だとかを捉えて、準備として、地域の生き残り戦略の取っ掛かりになるよという意識で考えるのか。その辺の大空町と網走市として、どういう考え方でやろうとしているのかということをお聞きしたいと思えますけれども。

【座長】非常に重要な観点かと思えます。つまり政府から、国からお金が出るからということ、これを作るのかということですが、逆に国はこういった地方、中央を問わず地域の変容というものに対して自質化が伴う対応が必要だということ、とにかく国の方から主体的に、いわゆる地方の主体性を、そのために必要なお金があれば出しますからという、私はそういうふうに理解しているのですけれども。従ってそうであるならば、今、委員がおっしゃったような、ビジョンですか、我々が独自で、今後どういう地域づくり、まちづくり、これを進めて行くかという主体性が、この委員会にも問われるのではないのかなというふうに考えておりますけれどもね。中々その分野分野によって産業分野ではわかりにくい部分もあろうかと思うのですけれどもね。

【委員】委員の皆さん、そうだと思うのですけれども、網走市としてどう位置付けているのか、大空町としてどう位置付けているのか、だから、今、少なくとも担当の方がどう位置付けているのかということをお聞きしたい。

【事務局】これから自治体が単独では、中々全ての都市機能とか生活基盤を確保して行くことは難しいということが、まずあります。それで周辺の自治体と一緒に一つ一つの圏域を作っていく中での住民サービスをしていこうというのがありまして、とりあえず今、両市町で取り組んでいる中で連携が取れて、連携ができることが想定できるようなものを、まず協定の中でうたっているのですけれども、そこから始めて行って、徐々にそういった連携できる取り組みを増やしていこうというようなところで、まだ今、スタート台に立ったばかりというところなものですから、中々突っ込んだ議論は、まだ出来ていないのですけれども。

【委員】わかりました。私の希望というか、実は今、津別町農協と西網走漁協とうちの漁協で、網走川流域における農業と漁業の持続的発展に向けての共同宣言というのを去年やったのですね。農業も極端な話、土を結構ないがしろにした農業をやってきたと。けども実は土が大事だということがわかってきた。土を大事にする農業をやると流域環境に優しい。それは漁業にも良い。そ

これは両方に良いのだよねと、一緒に持続した産業として生き残れるよねという思想なのですよね。それは非常に私たち自分たちでは、持続させて、環境を地域の生き残り戦略だと、私たちは考えているのですけれども、そういうような生き残り戦略っていうのをちょっと入れたものにしていただければありがたいなという希望ですね。

【座長】ありがとうございます。非常に重要な観点だと思います。私はこの懇談会で重要なのは、そういった点だと思うのですよね。よその市、まちで似通ったものであっては、僕はならないというふうには思っているのですよね。本当に委員の皆様も、そういった主体的なご意見をビジョンに盛り込んで行かないと、お集まりしていただいた意味がないとまでは言いませんけど、是非そこら辺りは、よろしくお願ひしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

他にいかがでしょうか。時間の関係で、そういったことを言ったら怒られますけれども、いくつか議案がございますので、あとなるべく早く進めて行って、質問等も議論の時間をちょっと作りたと思いますので、先に進ませていただきたいと思ひます。

5（2）網走市大空町定住自立圏共生ビジョン及び懇談会の趣旨説明について

【座長】それでは、第2番目の議事2号の網走市大空町定住自立圏共生ビジョン及び懇談会の趣旨説明についてでございます。事務局の方から説明願ひます。

【事務局】網走市大空町定住自立圏共生ビジョン及び懇談会について、ご説明いたします。

はじめに、定住自立圏共生ビジョンについてですけれども、定住自立圏共生ビジョンは、先ほどご説明いたしました定住自立圏形成協定に基づいて、協定により形成された圏域全体を対象として、圏域の将来像や、おおむね5年間の両市町が連携する具体的取組を記載する事業計画であります。

お配りしています資料4 網走市大空町定住自立圏共生ビジョン素案をご覧ください。表紙をめくっていただくと、目次があります。

共生ビジョンは、第1章から第5章までの構成となっております。

1ページの第1章には、定住自立圏共生ビジョンの策定にあたってという見出しで、1つ目にこれまでの取組を記載しています。

2つ目には、定住自立圏の名称及び構成市町として、名称は、網走市大空町定住自立圏、構成市町は、網走市と大空町であることを記載しています。

2 ページをご覧ください。3 目的として、共生ビジョンは、協定に基づき、両市町が連携して推進する取組について、内容やスケジュール、事業費見込み等の具体的内容を記載する旨を記載しています。

4 計画期間は、平成23年度から平成27年度までの5年間で、毎年度所要の見直しを行うことを記載しています。

第2章の定住自立圏に係る圏域の概況と現状については、1 圏域の概況で両市町の概況を紹介しています。

4 ページからは、2 圏域の現況として、人口・世帯の推移、年齢別人口の推移、5 ページに産業別就業人口の推移、6 ページに事業所の推移、7 ページに工業の推移、8 ページに商業の推移、9 ページに漁獲量及び生産額の推移について、両市町の統計数値をそれぞれ記載しています。

10 ページをご覧ください。

第3章の圏域の将来像については、最後の段落になりますが、「そのため」のところで、「本圏域を構成する両市町は、圏域住民が日常生活圏を共有していることを踏まえ、お互いの独自性を尊重するとともに、相互に役割を分担し連携を図りながら、定住に必要な都市機能や圏域住民が真に必要な生活機能の確保、充実を図るとともに地域活性化に努め、安心して暮らし続けられる圏域」としています。

11 ページをご覧ください。

第4章の「定住自立圏形成協定に基づき推進する具体的取組」についてですが、1 取組体系は、政策分野、協定分野、協定事項、具体的取組で構成しています。

政策分野、協定分野、協定事項については、協定書に定められている内容になります。

具体的取組は、1 の地域センター病院・地域基幹病院支援事業から21の圏域職員合同研修事業まで、現在、両市町において独自あるいは連携して、既に取り組んでいる事業を集約して、体系化したものが、21本の具体的事業になります。

さらに、21本の具体的事業に、両市町が実施している個別事業がぶらさがり形になります。

本日は、この具体的事業と個別事業の調書をお示しできませんでしたが、次回の懇談会の開催案内時に、事前送付させていただきたいと考えておりますので、ご了承ください。

以上が、共生ビジョン素案の大まかな内容となっています。

続きまして、懇談会の役割等について、ご説明いたします。

お配りしております資料1 網走市大空町定住自立圏共生ビジョン懇談会設置要綱をご覧ください。

第1条に懇談会を設置する目的が記載されていますが、「網走市大空町定住自立圏共生ビジョンの策定に関して、関係者の意見を幅広く反映させるため」とあります。

また、第2条の所掌事項には、「懇談会は、ビジョンの策定又は変更に関することについて協議する。」とあります。

先ほどご説明いたしました共生ビジョン素案は、あくまでも叩き台ですので、この叩き台をもとに、委員の皆さんのご意見をいただきながら、反映できるものは共生ビジョンに盛り込み、修正を加えながら、素案から案を策定してまいりたいと考えています。

また、委員の皆さんの任期は平成24年度までとなっています。共生ビジョンは、毎年度所要の見直しを行うこととしていますので、来年度も見直しに関して、ご意見をいただく機会がありますので、よろしく願いいたします。

以上で、事務局の説明を終わります。

【座長】ただ今の説明で、特に伺いたいところ若しくは確認したいなどございましたら、どうぞ委員の皆さん遠慮なく。

こちらの共生ビジョンの素案というのが出されておりますけれども、ご覧のとおりこれからここに我々の議論を踏まえたいうえで、肉付けをしていくことになっております。本来こういう形っていうのがあるのかどうかと、私の個人的な範疇では「ちょっとな」とあるのですけれども、先程も説明ありましたけれども、この懇談会3回という予定でおりますので、限られた回数・時間の中で、集中的に進めていくためにも、叩き台というのがあれば、皆さんのご意見が出やすいのではというふうに考えております。

如何でしょうか？何か確認・質問ありましたら遠慮なく。

【委員】共生ビジョンの素案それから、今日の委員会名簿を見ても、農業団体、農業に関することがちょっと抜けているのではないのかなと。先程、産業ですね、いろいろ広域的な連携ということで、水産業でいうと9ページに漁獲量の推移等が載っているのですけれども、農業の事業が欠落しているし、委員さんもちょっと居ないので、どうなっているのかなと思います。

【事務局】協定書に掲載している取り組みについては、両市町が取り組んでいる事業の中で既に連携している事業のほか、今時点で連携が想定される事業を抽出したものであります。

農業の生産の部分に関しましては、それぞれの自治体の中で完結しておりますので、今時点での連携が想定される事業がないと、自治体の方でやっている事業の中では、ないという判断から、協定には掲載しませんでした。

ただ、加工品や販路拡大の部分につきましては、産業振興分野の方で、圏域経済の活性化と雇用の創出という部分で、その辺は網羅される形になります。以上です。

【委員】やっぱり産業という捉まえ方をすると、どうも水産業だけでは片手落ちな感じが否めないのですよね。やっぱり各々自治体毎で完結されているということですけれども、当然やっぱりお互いの産物の良い面、悪い面を補完し合うとか、当然そういう流域一体の取り組みというの、先程、津別農協と網走漁協、うちの組合ということで、やっている経緯もあることですから、ゆくゆくは流域で大空町も美幌町もという考え方を持っているのですよ。この足がかりというか、土台づくりステップづくりの部分でも産業ということを一括りで、ちょっと考えてもらえればなど。今後そういう意見があって反映できるのかどうか？

【事務局】とりあえず今年度につきましては、初年度ということで、それぞれの自治体で取り組んでいるものを集約する形でこの協定書を策定した経過があります。今後、懇談会の議論もありますし、これからのビジョンを策定していく中で、来年度に向けてそういった農業も含めたいというようなこともあれば、そういったことも両市町の間で協議しながら盛り込んでいくということは可能です。ただこの協定書は、網走市と大空町のそれぞれの議会の議決を頂いて、この協定を結んでいる関係で、この協定書に書かれていない取り組み項目を追加するといった変更がある場合は、また再度、議会の方にお諮りをして、議決を経た中で、また共生ビジョンに反映させていくというような手続きを踏む形になります。そういったことで今年度は、協定書を結んだばかりで初めてのビジョンを策定するといったことがありますので、今年度の事業については、この農業が抜けてしまう形でのスタートにはなるのですけれども、そういったことでご了承いただきたいと思えます。

【委員】事務局おっしゃたのは、自治体の具体的取組事業を増やすときには、そうだとということですよ。

いや、ただこのビジョンの資料とか、この地域がどういう地域であるとかということを書く分には問題ない訳ですよ。

その中でいくと、やっぱり産業としてのデータとして、農業生産が凄く大きいよと。一説によると、北海道の食料自給率が200%、この辺1000%じゃないかというのを聞いたことがありますよ。だから日本の中でも特異的に食料を作っている地域なのですね。それがベースになって地域の経済が回っていると、そのうえに市民生活があるよということを、きちっとこの中で把握して

おくべきじゃないのかなと思うんですよね。そのためにはやっぱりデータとして、農業生産も挙げていただいた方がわかりやすいかなというふうに感じます。政策だとか、事業としては直接出てこないとは思いますがね。

【事務局】当初、農業も載せるような形で、素案づくりを進めていたんですけども、網走ではデータを取っているのですけれども、大空町の方のデータを集計していないということがあったものですから、今回、ビジョンの方にデータを載せるのは見送った経過があります。

網走の部分だけ載せるというのは可能なのですけれども、またそうなる釣り合いがちょっととれないかなということで、今回ちょっと見送らせていただいたのですけれども。

【座長】もし概況だけということであれば、農業も可能かなと思うのですけれども。大空町がそれを取ってないというのはちょっと私も違和感がしたのですけれども。例えばいわゆる農業の分野は、この地域は既に連携で具体的に進んでいるということも私はあると思うので、いわゆる JA オホーツク農協とかね、いわゆる合併ということもありましたし。だから農協の方できちっとした全ての農業データを出してくるということが必要になってくるということのかなと思いますけど。ただ、今事務局の説明を聞いていますと、確かに協定書には、これは山下町長さんと水谷市長さんとの協定で、これは間違いなく協定の中身が議会で承認されたということだろうと思うのですけれども。これには確かに載っていないということで、議会を無視してまでやれるということでもないのかなということもあろうかなと思いますけど。ただ必要なことがあれば、もう一回協定の中に、それを手続きとしてちょっとやっかいな話だなと思うのですけれども、農業という分野も入れるということが必要なのかなと思いますけれども。ちょこっとこのビジョンの中で「事業事例としてやっています」みたいなことは出来ないのでしょうかね？

【事務局】委員さんがおっしゃっている、網走川流域の土づくりとかいったような事業については、環境の河川の部分がありますので、その中で農業団体も含めた取り組みといったようなことを、民間レベルの事業で取り入れるということは可能だと思いますが。

【委員】さっき言っていたのは津別だけですから、これには載ってこない話だと思いますけれど、東藻琴だとか土砂流出だとかひどかったのですけれども、農協さんの堆肥場の苗を使ったら流れなくなったと農家さんが言っていた。網走市内でも一生懸命やっている農家さんいっぱいいらっしゃいますので、農協さ

んも一生懸命やっつけていらっしゃる。そういう中で横に繋がってくる部分が出てきますよね。事務局がおっしゃったようにそんなようなところで載せていただければなあと。それと多分議会に問題があるのは、この第4章に載けると問題なのですよね。第4章以外は関係ないですよね。

【事務局】はい。そうです。圏域の概況の紹介とか、そういったところで農業のデータを載せるのは全然問題ないです。

【座長】概況の部分で、触れるというのはやったほうが良いかなと思います。確かに民間のレベルで流域の連携とかね、そういった部分もどんどん進んでいっておりますし、林業の方では、森林認証の制度も進んでいっておりますし、それらの民間レベルで進んでいるというところを、ちょっと何らかの形で触れるというのは必要になってくるのではと思います。

【委員】私はしつこく言っているのは、やっぱり漁業と農業も実は繋がっているよ。環境と漁業、環境と農業も実は繋がる。だから市民生活とも繋がっているのですね。実は有機物循環で、市民生活と農業は繋がったりするのですよね。環境も繋がっているのです、全部繋がっているのです。だから特にこの辺は農業が大きい、漁業もある程度大きい、それが地域経済のベースになってそれで成り立っているよ、そういう構図をきちっと見ないと持続的発展とか地域の生き残りをかけたことが、それが必要でないかと思うので言っているのです。そういうことでお願いしたいと思います。

【座長】全くそのとおりだと私も思っていますけども。その点もう少し考慮していくということでよろしく願いいたします。それでは、それ以外にご質問等あれば。

5（3）各分野における現状と課題等について

【座長】それでは後でまだ質問等も設けたいと思いますので、次の議事の3号に移ります。

各分野の現状と課題各分野における現状と課題等についてでございます。

委員の皆さんは、協定書に掲載されている各分野の関係者の方々でいらっしゃいますので、それぞれのお立場から、今、各委員などから出ましたような、網走市と大空町の取り組みなどで課題となっていることや、今後両市町の連携が必要と考えておられる項目などについて、恐縮ですがけれどもお一人ずつご意見をいただきたいと、このように考えております。

時間の関係もございますので、お一人様3分以内でお願いしたいと思います。
それでは、各委員から順番にお話いただければと思います。

【委員】救急医療というお話になりますので、網走市と大空町だけの話だけでなく、斜網地区としてお話させていただきたいのですが、皆さんご存知のとおり、道内、全国的に救急医療の崩壊ということで病院の閉鎖、あるいは診療科の閉鎖、医師引き上げなどが、盛んに行われてきております。この斜網地区も全く例外的ではなくて、実際的には各病院の中では、たくさんいろんな問題が起きてきておりました。それで5年位前から医師会としていろんな働きかけを住民の方に、行政にやるということですとずっとやってきまして、一昨年に初めて救急医療フォーラムというのを、ここエコーセンターでやったのですが、去年もやりました。その中で、今年の2月に網走市町内会連合会研修会というところに私が招かれて網走市内2町内会長さん、それから役員さんがまとめた中で、もう一回網走市の救急医療の状況を話して欲しいということでお話ししたところ、会長さんはじめ多くの人から、全く網走市にそういう救急医療の問題が実際に起きていること自体全く知らなかった。本当に教えてくれて助かった。自分たちは本当に反省しているという言葉がたくさん頂いたのですね。ちょっと長くなって申し訳ないのですけれども、それで、北見日赤とか紋別とかが潰れていったのも、問題は、病院の中では何年もずっと抱えていた問題だったのです。斜里も同じだったのです。それがある日、病院の中で処理仕切れなくて表に出したとたん、診療科閉鎖。それまで数年間ずっと問題だったわけで、厚生病院も同じような問題があったために、対岸の火事ではないですけれども、それを見てこれは早く市民の人に話した方が良くと思って、ここ2・3年ずっと活動してきたんですね。そういうことでこの救急医療を保って行くには、市民と行政と病院が一体とならないと保っていけないということを、是非ともご理解いただきたいと思ひまして。それでもう一つは、一次救急というのは各自治体が責任を持つということになっているのですね。二次救急は広い範囲にあるので、いくつかの自治体が共同で二次救急の責任を持つということになっております、行政的に。ところが、この斜網地区は、一次救急はそれなりに女満別病院も先生お見えになられて頑張っているのですが、二次救急に関しては、全くそういう制度がないのです。ないのですが、実質は網走厚生病院が二次救急病院として、いろんな病院から引き受けているんですが、そういった制度がないために、各病院間で患者さん対応のトラブルが実際起きているんです。そのことは救急医療の問題になっていくので、去年から各自治体に働きかけて、今年の8月を目途に二次救急医療体制を確立しようと、それは自治体が前面に立って制度を作る。その中に大空町も入っていただいて、実際この共生ビジョンの先取りの形で、今年の8月には、なんとか一次二次救急含めた医療

体制が確立できるだろうということになってきています。これは医療機関、医師会だけが頑張っても本当に救急医療というのは潰れていく可能性が十分ありますので、是非とも皆様のご協力をお願いしたいと思います。それともう一つ、うちの病院は30名の医師がいるのですけれども、8割が北大と旭川医大からの派遣できております。2・3年で8割入れ替わります。大学側は、北見とかいろんなどこから全道・全国、皆同じなのですが、医師を引き上げていくときに、一つの基準が、派遣のしがいのない病院からは引き上げる。行かしてもドクター達が働き甲斐がない。働いている意味はない。自分の力が伸びないような病院を外していくのです。そのためにも働き甲斐のある病院にするというのは、院長の責任なのですが、来た方が住み甲斐があるまちですね、まさにこの書いてある言葉どおりにこの網走市が、派遣してドクター達に魅力あるまちになっていくことが、今も一人二人5年10年と長く勤めてきているドクターがいるんです。そういう形で定着していくドクターが、一人でも二人でも増えていくことが、またこの地域の医療の充実さに繋がって行くと思いますので、そういうことも含めて、この会が有意義なものになりますようお願いしたいと思います。

【座長】今の観点本当に重要なことで、私も斜里町に住んでいるのですが、斜里の国保病院の問題がずっともう命に係わる町民の問題ですので、こういったビジョンの中に厚く入れていただければなと思いますので、是非今後ご意見お願いいたします。

【委員】大空町に関しては、病床ベッドを持っているのは、1病院だけです。診療所がありますが、この二つの機関だけが診療体制になっています。救急体制に関しては、今、先生がおっしゃられたように、大空町は、医師会は美幌医師会に所属しておりますが、救急体制に関しては、こちらの網走の方に入れさせてもらって、協議会に参加しておりますし、またいろいろと網走の方に近いものですから、患者さん自体も網走に直接、救急で行ってしまうという状況になっております。また二次救急に関しましても大変お世話になっております。そのところは、先生のご努力の結果、うまく受け入れていただいておりますので、すべてお任せしている次第です。

【座長】ありがとうございます。
やっぱり協力体制が整ってくるというのは良いことなのですが、どっかにやっぱり負担が、加重負担になってくる部分がないように、やはりこういったビジョンの中できちんと役割の分担だとか、そういったことをもう一回再整理するという必要があると思います。

【委員】私の方は社会福祉協議会という立場からなのですが、取り組みの体系で行きますと、福祉サービスの向上の、福祉サービス広域化事業ということになるかと思えますけど、大空町、網走市の方で協定を結んだこの項目の中での連携、協力を出来ることは無いかと。限られることになるわけですから、これで行けば、社協に関しては、協定書の中の6ページ福祉サービスの向上のあのところの福祉サービスの向上、従事者の人材育成のための講習会だとか研修会を開催することに限られてくるわけなのですが、今、社協でやっている事業の関係から言いますと、正直申し上げまして、福祉の関係で連携していった方が良いと思われるものは、実はあまり思いつかないというのが正直なところでなんですよね。ヘルパー事業とかやっていますけれども、中々他のまちと共同で連携・協力してやるような性質のものではありませんし、困っているのですけれども。ただ、この中に入れると適切かどうかとなりますとわからないのですが、この福祉サービス従事者の人材育成と、直接的には関係ないかも知れないのですけれども、福祉サービスの定義の中にボランティア側も入るとすれば、小さなこととなりますけれども、例えば高齢者ですとか障がい者といったような方が、網走市と大空町両方にまたがって移動したいとか、旅行したいという時に、恐らく広域的に支援する必要が生じてくるのかなと。そういう時に、今までだと例えば網走に声がかかれば空港まで迎えに行って網走まで同行するとか、そういったことになるのですけれども。もしボランティアが連携できれば、途中までは大空町までのボランティアをお願いして、例えばバスに乗るなりして、網走に来ればそこから網走で受けるというようなことも可能なのかなと。この連携してやる事業の中に入れるにはあまりにも小さいものなのかも知れませんが、そういうことが出来れば、ボランティアの支援を受けたい方が、連続して間断なく移動サービスを受けられるでしょうし、ボランティアをする側も途中から引き継いで出来るということで、そういう情報の共有だとか、連携だとかっていうことが出来れば良いのかなと、気がちょっとしまして。そのくらいしか福祉の協定書に入っている中で考えれば、今のところ思いつかない状況でございます。

【委員】私、社会教育委員からなのですが、我々は教育委員会の諮問機関で活動している訳であります。ただし、教育を旨としたまちづくり、その発想が基点になっている訳でして、教育は人づくり、人づくりはまちづくりというような中でそれぞれの企画立案をしながら、まちづくりの一翼を担っている訳でございますけれども、いかにせん組織はたくさんございますが、その間のまちづくりの連携が出来ない実態でもあるわけです。こういうことから考えますと、やはりこういう定住圏の皆さんの多種家業の中から、いろんな知恵をい

ただきながら、我々の事業展開していくものをどうまちづくりに反映させていけるのか、この辺りを模索しながら、改めてこの機会に、諮問機関じゃないのだぞと、実践で動くようにするにはどうするのだと、というような方向にさせたいものだと考えております。さらにもう一点は、やはり先程国から補助金が、網走が4千万、大空町が1千万というようなことでありましたけれども、これをどのように事業に展開していくのか。あるいは住民にどうやってこの定住圏のPRをしていくのか。この辺りをソフト面からでも早いうちにお伝えしていただければ幸いです、このように思っております。

【委員】常日頃、札幌ドーム辺りで4万人以上の観客を集めますよね。網走の人口が約4万人ということで、そういう一つのキャパに入る人口で、自治が成り立っている。こう不思議というか、感傷的になっているのですけれども、まさにいろんなことが実際に起こってきたんだなということだと思っております。今回この事業の将来像が出ておりますけれども、やはり経済の縮小がこういうことになってきているのだなと思っております。ですから、課題は一次産業の方々と地域で付加価値をどう高めて行くかということにあるのかなと思っております。それと先程質問の中で出来なかったものですから、後で時間があれば一点だけ質問させてもらって、これ5年の計画ということなのですけども、5年後をどう見据えているのかということ、もし時間があれば、教えて頂きたいと思えます。以上です。

【委員】平成18年に町村合併してから、丁度5年経過するのですけれども、まさにこのタイミングで今年の3月31日に女満別商工と東藻琴商工会が合併をいたしました。そして大空町商工会という形でスタートしたばかりということで、現在185名の会員で、組織率72%という実態でございます。商工会の中身ですけども、非常に、当町だけではないのですけれど、補助金の削減とか、過疎化とか、高齢化社会とか、購買力の低下だとか、後継者不足とか、いろいろな問題が山積しております。合併した中で一つ一つ解決して行こうと我々も頑張っているのですけれども、ただ一つの流れとして、私ども斜網地域の広域連携を結んで、そこで活動しております。斜里、清里、小清水、大空という形の4町の中で活動していきまして、定期的に会議を開いて、現状と課題について情報交換しているという状況にあります。網走商工会議所さんとは組織も違うものですから、ほとんど今の段階では、接点がないという状況にあります。今後のことを考えた中では、やはり連携するということであれば、私ども商工会のスタッフもぎりぎりですし、それほど余裕もありませんので、具体的にテーマを絞った中で取り組むということが必要なのではないかなというふ

うに私個人的には思っています。ただこの5年間の中で、地元産ブランド商品の開発、販路拡大とかいろいろやっていますので、探るべき方向は見えてきているのですが、これから網走市さんといろいろ協定しながらやっていくことは可能だというふうに私は考えております。それと商工会に直接関係はないのですが、短期滞在型のお試しくらしの、網走市の方から頂いた資料なのですが、実は当社のマンションを網走市に建てて、2年前ですか、当時田口課長がこられて何とか協力してくれということで、数室用意してくれと。数ヶ月程度のことで、網走市の不動産会社と提携して用意しております。こんな形もすでに連携が始まっているということも言えるのではないかと思いますし、当町でもそんな数は多くはないのですが短期滞在型の官の物件、民の物件をいくつかご用意できる状況でございますので、こういうことも含めて出来る方法はいくつかあるというふうに考えております。

以上です。

【委員】うちの組合41名の組合員がいるのですが、そのうち大空町に所属しているのが13名おります。そういった事で、網走市と大空町とまたがっての漁協ということで、その辺の交流はさせていただいておりますけれども、更に連携を深めていくことを考えると、大空町の方で道の駅でいろいろしじみラーメンとか、しじみ醤油だとかシラウオ祭りだとか、そういったものが、非常に精力的にまちの方を挙げてアピールさせていただいております。網走市の方も、道の駅の会場で湖感謝祭だとか夕市ですね。それから能取の方では、さんご草まつりといった事で、青年部等主体となってPRをしているところでございます。各々確実に地元製品のPRを行っているのですが、こういう宣伝事業というのは、非常に大事な事だと思っております。付加価値を高めるという部分ですね。思っているんですけども、イベントが非常に多くなると、いろいろ人の問題やら金の問題やら、そういった部分で非常に提供しなければならない部分というのも多く出てくるものですから、何とかこの辺の産地PRを市と町で連携しながら、効率的なこの商品宣伝というのが図られないのかなと、ちょっと期待しているところでございます。

以上です。

【委員】観光を産業と捉えた場合に、網走の場合、大空町さんもそうなのでしょうけれど、先程から話のあった農業と漁業と並ぶ基幹産業の一つとして位置付けられてきているという状況にあります。ただ、ここ数年、景気の低迷もあるでしょうけれど、落ち込みが激しく、歯止めがかからない状況になっています。それに加えて3月に起きた東日本大震災で、放射能汚染。この問題はまさに、これまで経験したことの無いような大きな問題として今のしかかって

います。よく最近新聞テレビ等で、外国人が全く来なくなったという話がありますけれども、まさにその通りで、3月の中旬から5月にかけて、全くゼロの状態が続いています。最近やっと少し台湾あたりが少しずつ回復してきたのは事実です。ところがそれ以上に国内客が今大変なのですね。こちらの方に来る道外のお客さんは、ほとんど半数以上が、関東東京のお客さんなのですね。それが今のそれぞれの方が住んでいるところに余震が続いたと、さらに自粛ムードが広がったと、そうなったこともあって、関東東京のお客さんの足が止まってきているのです。止まってきているのですけれども実は完全に止まったわけではなくて、これは西の方に行っている、特に九州。それは何故かという、北海道と東京羽田を結ぶ飛行機が、福島の上空を飛ぶのです。福島原発の上を従来でしたら通っていたのです。これが今経路を変えて、内陸を通るコースと太平洋に出るコースと往復で完全に分けているのです。東京の人の話を聞きますと、やはり福島の上を飛んで北に行くというのは、抵抗があるのです。こういうことで北海道が敬遠されていると。これ何時まで続くのかわからないですよ。やっぱり福島原発が収束しなければ、この状況は回復しないだろうと言われていています。それと併せて、網走市と大空町は、空港の関係がございます。特に女満別空港も最近利用者数がどんどん実は減ってきて、一時は110万人あったのが、今70万人を切るような状況になってきている。それと併せて国際チャーター便も、去年で1往復だけになってしまったという状況がありますから、ここに協定書にあります広域観光、女満別空港を核とした海外も国内のお客さんも呼ぶ努力を続けて行かなければ、地域の観光資源はこれからも続かないだろうというふうに思っています。

【委員】観光の今の実態については、全くそのとおりですね。私ども空港を持つ、窓口を持っているまちとして、空港利用者が激減しているということの中で、非常に厳しい環境にあります。私たち観光協会という組織は、4月の水芭蕉から始まりまして、5月湖水開きをやって、7月、8月には、地元の方のキャンプ場とか納涼花火大会、それとまた西網走漁組さんのご協力を得まして、しじみの遊漁料というようなことをやっております。それが大きな活動財源になっている訳ですが、そして9月、10月とヒマワリ朝日展望台ということで、従来の女満別地区の観光は、その他に冬にはワカサギ釣りということで、どちらかという網走湖を機軸にした観光の流れをしております。震災のあった3月11日以来、観光客が、ワカサギ釣りの方も激減したというか、釧路だとか旭川から来る人も止まりまして、ちょうど3月15日には、20日位までやるのですけれども、そのような震災の極端に影響を受けた感じを持っております。その他の活動としまして、現在、メルヘンピットの観光案内所を昨年6月30日にオープンして、そこで大空町ということで東藻琴地区も、芝桜

公園とか網走市、知床にわたる観光案内を情報発信基地としての職員を配置して、現在に至っております。ただこのような定住自立圏ということで、よく定住、定住と役場の方は使うのですけれども、定住者をサポートしようとか使うのですけれども、本来、観光というものが地元の産業に根付いたものを行かないと、最終的に来る方は良い時期に来て、帰るということで、中々風光明媚な大空町にしても、それから網走市にしても中々観光客を、取り込むことが難しいという課題があると思います。例えばそういう意味では、先程、委員が言いました産業と言う意味で、言われたように、この自立するという意味が、いろんな多岐にわたると思いますけれども、産業をいかに育成して、地元のものを使ったものを札幌圏でも、東京圏でも売って行くのだというようなものを、やはり最終的には地域に付加価値を高めていくような活動が出来るのではないかなというふうに思いますので、地域が生きていかななくてはならないという現状があります。三陸のいろいろな惨状を見ると、漁業者が産業をどうやって生活していくために、どうしていくのだということを言われていて、やはりこれからは北海道が一番考えていかななくてはならないと。そういう農業、漁業含めて、第一次産業と第二次産業、そして第三次産業の六次産業をですね。六次産業ということでよく講習などに行つて言われるのですけれども、具体的に、出来ることからやはりやっけていくような活動が大事でないかなというふうに。その上立って、観光のイベントとかそういう活動を進めていくことで考えているところでございます。

以上です。

【委員】私も立場上、この会の方に参加するかどうか悩んだのですが、何しろ小さい観光協会でございますので、人材にも限りがございます、ほとんどいろんな協議会に出席しております、中々参加できません。それで私も今後において変わる可能性もございます。それでどなたでも良いということでもいけませんし、こういった会議には、やはりある程度議論をして、その議論の中から良いものを見つけ出していくというのが、建前でございますので、中々人選に苦慮しております、ご迷惑をおかけしておりました。東藻琴の観光協会といたしましては、観光といいましても大変幅が広くて括りにくいのですけれども、やはり広域観光の一環として参画をさせていただきたいというのが、基本でございます。皆様方がおっしゃったとおり、観光客の激減はしておりますけれども、この暇な時期に10年後の、カッコよいことを言うわけではございませんが、基本的なことを考えて、網走市あるいは、女満別の観光協会とも連携しながら、新しい観光を考えてみてはどうかというふうに考えております。また、網走市、そして3町、美幌、大空、津別さんとの広域観光のほかに、網走市、そして大空町、そして小清水町、弟子屈町との道道網走川湯線を結んだ

広域観光の事業もやっておりますので、今そういった方面に向けて一つの観光資源として、今後どういったものができるかといったことが課題として、今後また取り組みいただければと、このように思っております。
以上です。

【委員】私は公共交通の立場として発言させていただきたいと思います。協定に基づき具体的な取り組みとして、生活路線バスの維持・確保ということで挙げていただいております。大変感謝申し上げます。ご存知の通り現在のバス事業も非常に厳しい状況にございまして、平成12年貸切バスの需給調整規制の撤廃、それから、平成14年の乗合事業の需給調整規制の撤廃ということで、基本的に参入、撤退が自由になったということで、貸切事業者がどんどん新規参入してきて、運賃のダンピングによりまして、それまで都市間交通や貸切バス事業で支えてきた地方交通が、維持できなくなってきたということで、どんどん路線が廃止になってきているという形でございます。補助金をいただいているというふうに、皆さん100%いただいていると思っているかも知れませんが、補助要綱の中に一日15人以上の乗車人員、あるいは3人以上との補助要綱がありまして、その中で、乗車率は、5人未満の路線につきましては、「いた」とみなすという補助要綱でございまして、仮に一便あたり3.5人といたしますと、小数点以下切捨てということで、3人分の補助金しか出てこない。2人については、事業者負担か若しくは自治体の皆さんに、補填をしていただいているということでございまして、中々今地方の財政もゆるくないということで、そういう路線については、どんどん廃止になっていく。一時は路線バスで全国を旅行できたが、路線が寸断されてそうならないということになっております。こういうふういろんな問題点がたくさん挙げられておりますけれども、根底にあるのは、人口の減少だと思っております。少子高齢化、高齢化社会といっても過言でないのかなと思いますけれども、そこを自治体が真剣になって少子化対策、人口の流出の対策、この両面をですね。人材育成の場においてでも、やっぱり優秀な人材は、都会都会へと流れて行ってしまうということもありますので、やっぱり商店街を含め、地域の活性化をどんどん進めていただかないと。こういう問題も、やっぱりどんどん先細りになっていくのかなというふうに感じます。やっぱり地域、企業も含めて子育て支援をしっかりと、地域の人口が減らないようにする。そして活性化をどんどん高めていって、豊かな地域に育てていく。それを一つの市、それからどんどん幅を広げてやっていくというのが、この先に結びつけていく課題なんじゃないのかなというふうに思っています。この懇談会の発足が、補助金を貰うための立ち上げだということになれば、本末転倒だと思いますし、こういった補助金を利用して、いかに地域が肩を組んで乗り越えていくかということ、先

の議論として、やっていただければなというふうに思っております。
以上であります。

【委員】現状は、今言われました網走バスさんと同じように、うちもバス会社なもんですから、そのような状態であるということです。当社に関しましては、大空町の東藻琴を拠点としまして、一路線だけ定期バス、乗合バスを運行させていただいておりますけれど、やはり利用客の減少に伴って、どうしても採算性が合わない。かと言って止めるわけには行かない。当然、東藻琴地区より網走の方の高校に通うお子さんの通学の足として、利用されている部分がありますので、どうしてもそこを走らせざるを得ないと。ただやはり企業努力によって、運行系統等の経費を削減しているのではありますけれども、どうしても企業だけでは、それを賄いきれない。まして観光バスも主体としてやっていますが、この状況で行けば、観光バスも中々採算性が合わない。企業の中で赤字を補填するのは難しいという形の現状であります。

当社は、貸切バス、乗合バスのほかに東藻琴地区のスクールバスの運行もさせていただいているのですが、時間帯等のバッテングで、どうしてもうまく折り合いがつかないと。どうしても朝が忙しく、昼間が空くと、夕方午後からバッテングして、また、どうしても同じ台数が何台もいる。中々難しい現状でありますので、そういうことでいろいろと皆様のお力添え等ありまして、何か良い方法があれば、利便性も良く、採算性も良いような運行という形を執っていけるのかなという現状でございます。

以上です。

【委員】公募で応募しました、会社エーポイントと申しまして、デザイン会社と写真撮影とかをやっております、会社といっても社員一人で従業員うちの嫁さんになります、二人でやっています。元々自然が好きでこちらに34歳の時に来たのですが、今年で25年近くなります。それで仕事柄いろいろなところに行ったりとか、全国今、鹿児島まで仕事で行ったりとか趣味で行ったりしていますが、それで逆にこの地域のことが、よく見えているのかなと思って、今回公募した訳ですが、定住自立ということが、ちょっと飲み込めなくて、今日、初めて来てこういうことなのかなと。元々北海道自体が、東京から離れた地域、地方になりまして、よく僕たちの昔言われたことに自転車のスポークを例えて、例えばリムの中心のところ、東京であるならば、タイヤのスチールの淵が地方であると。中央から情報を発すれば一つの情報は、地方にリムを通じて全部に行くのだけれども、地方から情報を発しても中央を通さないと、いろいろなところに情報は行かない。そういうことで、例えば川にしても農業も全てのことが、今情報の無いところは、実際はあることが無いというような

形っているのがあります。僕ら情報の関係の仕事をやっているつくづく思うのですが、やはりいろんな良いことをやっても、情報を発信しないと、観光であれば、観光客に通じないと。そして集客できないとか、そういうことを思う訳ですが。この場をお借りしてやっぱり情報の発信ということが、先程委員が言われた、情報を発信することによって皆さん知らないことが、気がついてということがあると思うのですが、そんなことを今日お伺いしたこと、日頃感じていることです。情報の発信ということが重要じゃないかなと感じました。

【委員】大空町から一般公募枠ということで参加させていただきます。うちの本業は、自動車の整備工場をやっています、個人的には商工会の青年部の方に参加させていただいております。今日、先生方の皆さんの現状の話を聞いて、なるほどなあと、改めて再認識させていただきました。それでこの定住自立圏、言葉的には難しいのですが、僕が感じるのは、人なのかなという気がします。戻ってくる人、出て行く人、住んでいる人、いろんなアプローチがあるのかなと思うんですけども、僕は商工会の青年部ということで、中にいる人間として、どう地域に根ざして活動して行けるのかなって部分を、仲間達と話したりしております。この場で言うのが適切かどうかわかりませんが、結局情報が入ってこえさえすれば、理解できる部分多々ありますので、行政の方々に言っている訳ではないですけども、いろんな話し合いで、去年青年部の方でも町役場の職員の方に参加していただいたりして、随分話が通るようになった経緯もありまして、行政の方ともっとこう砕けた、ぶっちゃけた話で情報をいろいろいただければ、それを僕ら活用して、自分達の地域活動をしていけるのかなと感じていたりします。この皆さんの中で、僕が参加して良いのかなとちょっと思いますが、僕で力になれることであれば、住民として、各団体さんに所属していない格好で、公募ということで、無責任かも知れませんが、自由な発言させていただけたらと思っていますので、よろしくお願いします。

【副座長】副座長ということで、ご指名いただきまして恐縮いたしておりますけれども、田中座長さんの非常に素晴らしいお声を汚すことの無いように、足を引っ張らないように協力出来たらなんて考えております。私も社会教育委員の会から、推薦を受けて出席しております。ただ、私個人的にも網走で生まれ育って、もう半世紀を過ぎております。また、企業人としても、もう網走に戻って仕事をするようになって、40年も過ぎていくということで、まだ幸いメンバーの方、大体お顔と名前が一致する方が、ほとんどだということで、意を強くしておりますけれども、いろんな業界や団体、また会社の関係の方、特に管内、斜網地区を中心とした商圈に、60年印刷業を営んでおる関係で、皆さんといろんな問題についても、お話することもございます。何れにしてもい

ろんな会議でお話を聞きますと、網走も平成37年の人口推計では、3万人と
いうようなことが出てございます。私どもが一番胸を張っていた頃は、公称網
走は5万人といった時代がございました。そして私どもも、恐らく商売をやっ
ている師弟は、ほとんど当時大学を卒業して東京の方に残っても、かなり就職
は引く手あまたでございました。そんな中で、いやこっちに来た方が楽しく出
来るぞということもありまして、せっかく北海道の片田舎で起業した企業を、
二代三代続けたいこともあって、戻って参りました。私も子供4人おりますけ
れど、現在、網走市内には一人も残っておりませんし、この後、こちらでとい
うことになろうか、非常に難しいのかなと考えております。また、先程の素案
に目を通しましても、非常に10年ほど前のデータと比べた中で、いろんな数
字の落ち込みがとにかく大きいということで、こういう定住自立圏のことを機
会に、また、その辺にも十分意を置きながら将来を見据えて行きたいなと考
えております。

【事務局】大空町社会福祉協議会では、現在、地域福祉実践計画の策定作業中
であり、近日中に理事会へ提案する予定となっております。

この度の、定住自立圏共生ビジョンとの関連で、今後どのような方向になる
か、若干不安があります。

地域福祉の分野について考えますと、網走市と大空町は隣接する自治体では
ありますが、基本的な部分で大きな隔たりもあります。

以前から、保育所の広域入所や子育て支援センターの広域利用が実施され、
人材育成の分野においても、網走市社会福祉協議会が実施していますサービ
ス介助士の講座に対する案内もいただいております。この度を契機に、福祉サ
ービスに関する分野での連携を考えていきたい。

障がい者に関することについては、NPO法人夢の樹オホーツクの事業所が
大空町で開設され、若干の利用者はありますが、多くは美幌町の授産施設など
での就労者が多いというのが現状です。

以上です。

【座長】どうもありがとうございました。ちょっと私の進行の不手際で時間
がだいぶ予定の時間過ぎて、若干過ぎつつあるということなのですが、
今日は全般に辞令交付とか自己紹介とかあり、時間だいぶとってしまいました
けれども、今回は保守的な議論、ご意見、これを中心に進めて行きたいと思
いますので、今日皆さん各委員から現状並びに課題や様々なご意見ございま
した。これらをご自分の考えだけではなく、それぞれ皆さんのご意見を頭の中
で整理して、噛み締めながら、次回どういった提案が。やっぱり私は総合的
に皆さんの話を伺っていると繋がっているのだと。全く一見関係ないような
分野でも

、やっぱり繋がっているのだと。このビジョンというのは、それを繋がっているものを道筋として見えるような形で表すというのが、この目的なのだろうと思いますので、是非そのようなビジョンが出来るように。中には医療という人の命ですから、緊急の課題なんかもあります。そういったものも踏まえたいので、次の会議では議論を深めて更にいきたいと思っております。私も意見を言わなきゃならないと思ったのですが、次の回にまわしますので、次の回には私の時間もとっていただきたいと思っております。

各委員の皆さん大変ありがとうございました。

5（4）スケジュール及び懇談会の進め方について

【座長】 それでは、先に進みますけれども、議事4番目の今後のスケジュール及び懇談会の進め方にこれについて、事務局から説明願います。

【事務局】 スケジュールについて、ご説明いたします。

お配りしています資料5「共生ビジョン策定までのスケジュール」をご覧ください。

懇談会の開催は、今回を含めて3回を予定しています。

次回の2回目は、2週間後の6月21日に、同じ会場で開催いたします。

2回目からは、素案の中身について、具体的な協議をしていただきたいと考えております。圏域の将来像や、本日はお示しできませんでしたが、具体的取組と個別事業について、ご意見をいただきたいというふうに思います。

皆さんからいただいたご意見やご質問について、その場で回答できないものは、一旦持ち帰って、担当課あるいは両市町間で協議・検討して、3回目の懇談会で回答するというような形で進めさせていただきたいと考えています。

3回目は、7月19日に開催します。

3回目は、2回目でもいただきましたご意見に対する両市町の考え方などについて、さらにご意見をいただき、全体意見として取りまとめてまいりたいと考えています。

懇談会の全体意見をもとに、両市町で協議・検討を行い、7月中に共生ビジョン案を策定いたしまして、8月に1ヵ月間、圏域住民のご意見を幅広く聴取するため、ホームページなどを利用して、共生ビジョン案によるパブリックコメントを実施する予定でございます。

さらに、パブリックコメントでもいただいたご意見をもとに、必要があれば修正を加え、最終的には、9月末までに共生ビジョンを策定してまいりたいと考えています。

以上が、今年度、共生ビジョンを策定するまでのスケジュールでございます。

次に、懇談会の進め方についてですけれども、基本的には本日と同様の形で、委員の皆さん全員でご協議いただき、全体会議の形で進めてまいりたいと考えていますので、よろしく願いいたします。

また、懇談会で使用する資料につきましては、会議の開催案内に同封して、事前送付するように考えております。できるだけ1週間前位には郵送するように心がけておりますけれども、資料作成の進捗状況によっては、多少遅れることもありますので、ご了承いただきたいと思っております。

以上で、説明を終わります。

【座長】如何でしょうか。今後の進め方等含めて、何かご質問等があれば、なんなりとご質問いただければと思います。無ければ、これまで全体を通しての委員の皆さんからご意見・ご質問がおありになれば、今日は残念ながら、時間が本当に足りなくて、委員の皆さんには本当に申し訳ないという気がして一杯なのですけれども、次回は議論を深めて行けるような形で進めて行きたいと思っております。もし必要があれば、そのテーマによっては、数グループで分かれてやるみたいなのも、絶対的に必要になってくれば、それは考えなくてはいけないというふうには思っております。やはり情報って非常に重要だと各委員の皆さんおっしゃっていますが、情報の行政側からの発信だけではなくして、双方で情報の対照性というのが大事になるので、歪になっているんじゃないかなと、どこのまちでも。だから委員側からも、きちっとした情報が行政の方に発信されなければ、きちっとしたビジョンは出来ないと思っておりますので、この場は遠慮なく、ご意見どんどん出していただけるような雰囲気の中にさせていただく、ちょっと硬い雰囲気がありますけど、もうちょっとこう柔らかい、何でも言えるような感じで次回はやって行きたいと思っておりますのでお願いします。全体を通してよろしいでしょうか。私の方からお願いは、今日各委員の皆様から意見が出ました、これをもう一回整理をしながら、次の回では、本当に3回しかない、あと2回しかないっていうのは、限られ過ぎているのではないかと思いますけど、是非実のあるようにするためには、もう一回お考えを深めていって、再びお会いしたいと思います。なければ次の第6の議案ですけれど、その他でございますが、委員の方から特にこのことは言っておきたいみたいなことがあれば。ありません？それでは事務局から何かございますか。

閉会

【座長】くどいようですが、回数が少ないものですから、充実した議論を進めたいということもありますので、もし、今日の懇談会で何かこう申し述べたいことがありましたら、事務局の方にメールでも結構ですし、次の回はこう

いうふうにしろというような要望でもよろしいですし、事務局の方で受けていただきたいと思います。それで答えると、それじゃないと、血の通ったような感じがしませんので、事務局大変だと思いますけど、そのようにしていただきたいと思います。そして委員の皆さんは、申したいことがあればメールでも、文書でも、FAXでも何でも構いませんので、是非その点もよろしくお願いいたします。それでは、他になければ、全てこれで今日の議事の予定は全て終わります。本当に遅くまでお疲れのところ、大変ご苦勞様でございました。また次回もよろしくお願いいたします。本日はありがとうございます。